

お念仏と共に ～ 如来に念じられて生きていこう ～



親鸞聖人 (熊皮の御影)

去年今年 貫く棒の 如きもの

高浜 虚子

「私が…」、「私は…」と言いつつながら、その実「私」の中身は何にもなくって、空しさにさいなまれながら、どこか遠くに「私探し」、「生きがい探し」をし続けているのが「人間」という存在ではなからうか。お釈迦さまは、「自我」意識で生きるほかなき人間の、こうした実存的空虚を「根本無明」と説かれたのではなからうか。親鸞聖人の「南無阿弥陀仏」の一声は、「私」が破れ、時空を超えて貫くものに出遇った、その慶びであろう。

さて、私は…？ 聖人の御遠忌に向けて、共々に教えを聞いてまいりましょう！

宗祖を憶う

金子大榮

昔法師あり 親鸞と名づく 殿上に生れて庶民の心あり 食道となりて高貴の性を失はず 已にして愛欲の断ち難きを知り 俗に帰れども道心を捨てず 一生凡夫にして 大涅槃の終りを期す 人間を懐かしみつつ人に昵む能わず 名利の空なるを知りて離れ得ざるを悲しむ 流浪の生涯に常楽の郷里を慕い 孤独の淋しさに萬人の悩みを思ふ

聖教を披くも 文字を見ず ただ言葉のひびきをきく 正法を説けども師弟を言わず ひとえに同朋の縁をよるこぶ 本願を仰いでは 身の善悪をかへりみず 念仏に親しんでは 自から無碍の一道をしる 人に知られざるを憂えず ただ世を汚さんことを恐る 己身の罪障に徹して 一切群生の救いを願ふ 其人逝きて数世紀 長えに死せるが如し 其人去りて七百年 今なお生けるが如し その人を憶いてわれは生き その人を忘れてわれは迷う 曠劫多生の縁 よろこびつくることなし

ご門徒さん こんにちは！

第十四回

今回は、最近までお寺によくお参りに見えていた外園ミツエさんをお訪ねしました。近頃は膝が悪いとのことで、

姿をあまりお見かけしなくなり、心配していましたが、お元気なお姿を拝見して安心しました。現在、勝福寺にお参りに見える門信徒さんの中では最年長ではないでしょうか。

さて、ミツエさんは、大正12年生まれの九十四歳です。最初に名前の由来を尋ねると、父親が警察官で、日田の津江に勤務していた時に生まれたため、前津江、中津江、上津江の三地区の津江を入れて「ミツエ」と名付けられたとのことでした。

母親はミツエさんが四つの時に結核で亡くなり、子供はミツエさん一人だそうです。男一人での子育ては大変だろうと、院内の五名に住む母親のおばさん夫婦が、子供がいないのでミツエさんを引き取

りました。おじさんは雪が降ると、ミツエさんを自分の背中に負ぶって分校に連れて行ってくれたりするなどして、おばさん夫婦の愛情に包まれてミツエさんは育てられました。

さて、小学校を終えると、四日市の女学校に進みました。その頃、父と家族は院内の円座に住んでおり、ミツエさんもそこに住んでいました。家には後妻として母親の妹が嫁いでおり、子供（弟妹）が七

夫婦・親子の「絆」 外園ミツエ（四日市常德）

人出来ていました。

18歳で女学校を卒業すると代用教員として、小学校に勤めました。最初は子供の前に立つと、足がブルブル震えたそうです。そこに一年半ほど勤めました。頑張り屋のミツエさんは一旦学校を辞め、教員免許を取得するため講習所に通い、正規教員となってまた小学校に勤めたそうです。さて、24歳になったミツエさんは、朝鮮から引き揚げて

きて同じ学校に勤務していた六歳年上の順一さんと出会い、結婚しました。そしてすぐに妊娠しますが、つわりがひどいため学校を退職したそうです。そのため、主人の実家のある四日市の常德に帰り、実家の近所に住んで、農業をしながら70年間そこで暮らしておられます。

ご夫婦は四人の女の子供さんに恵まれ、現在は三番目の娘さんと一緒に住んでいま

す。ご主人はとても子煩悩で

子供を可愛がり、ミツエさんがご主人のために精のつくおかずを用意しても、それはみんな子供の口に入ったそうです。口癖は「娘は嫁に行ったら苦労するから、家にいるときは楽をさせとけ」が口癖だったそうです。44年間連れ添ったご主人は、26年前に74歳で亡くなられました。ご主人は亡くなる10年前にパーキンソン病を患い、



病院に3年間入院しましたが、その間に介護の仕方を学び、その後の7年間は、ミツエさんが自宅で介護をなされました。ミツエさんは、ご主人が寝付いたら、外の空気を吸わせようと思い、車椅子に乗せて外に連れていったり、食事は噛めないのでジュースを使って作ったそうですが、どうしても同じ料理になつてしまるのが心苦しかったそうです。

す。

そんな中での思い出は、ミツエさんがご主人の顔色や表情を見て、眠ったようなので外に出ようとすると、しゃべれない主人が「行くな、側におってくれ」という表情で裾を引っ張るの。分かるんだね」と懐かしそうに語ってくれました。さて、勝福寺とのご縁を尋ねると、「ここに住んでからずっとのご縁だね。でも、仏

法に出会ったきっかけは、主人が病気で入院中、心にすき間があつて人には言えないものがあり、胸がつかえるの。そんな時、主人を介抱して病院からお寺に参れば、お寺の空気を感じたり、いろんな人の話を聞いたりできる。それが楽しみですね。以来、ずっとお寺に行くことを入れかえさせてもらったり、気分が落ち着くの。やはりお寺は私の心の中心だね」と話して下さい、今も毎日寝る前には、「今日一日ありがとう、おやすみなさい」と仏様に感謝して掌を合わせているの。これが私の毎日の習慣」だと話してくれました。

ミツエさんを入れて八人の兄弟はとても仲が良く、毎年院内の実家に集まって、兄弟会を開いています。今年も明日がその日だということでも楽しみみだそうです。どうぞこれからも、お気に入りの自宅から見える妙見岳や山並みの風景と、空気がとても美味しいこの場所で、百歳、否それ以上もつと長生きなさって下さい。
(文責 渡辺 重昭)

「勝福寺・親鸞聖人七百五十回御遠忌」テーマが決まりました！

親鸞さま なぜお念仏なの？

—— 出会おう 語ろう 今ここで ——

御遠忌法要日時

2019年 11月 26 ～ 28日

御遠忌記念事業として
以下の事業を検討中です

御遠忌に向けて聞法会

2018年2月10日を第1回とし、毎月一回、合計20回、開催

※開催日は、第2土曜日 13:30 ～ 15:30

《前半 10回》

住職 釈尊の教え

親鸞聖人のご生涯

念仏・本願・浄土・

信心・煩惱・宿業等

坊守 親鸞聖人に出会った人(妙好人)、10

名に学ぶ

《後半 10回》

先生方にご出講願う

ほかに、毎回、ご門徒の感話と、「聞き書き」を作る予定です。

御遠忌に向けて文化事業

お寺が人々が出会っていく場となるよう様々なイベントを行う

勝福寺史の作製

御本山への上山研修と親鸞聖人の旧跡巡拝

2019年5月10日頃

蓮如上人御影道中の御上洛に合わせて

お寺のあり方を考える

*アンケートを実施

記念事業

聞法会に期待

渡辺和義

たものは何だったんでしょ
うか？

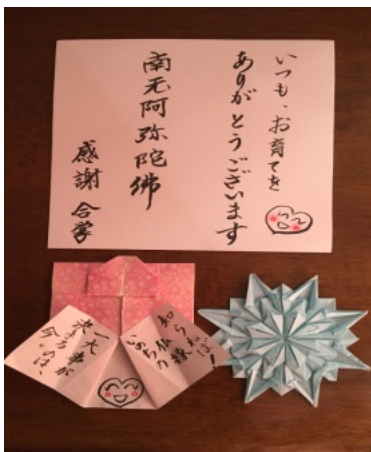
現代社会は、乳幼児死亡率が減少し、かつて不治の病と言われていた感染症もほとんど克服し、人生80年を超える長寿社会になり、身近に死というものを体験する機会は、著しく少なくなりました。その一方で、自殺が増え、20代・30代の死因の第1位になっていきます。孤立した若者が、インターネットのなかでうつかり「死にたい」などつぶやかうものなら、くいものにされたり、命まで奪われてしまします。現代人は、安心して愚痴をこぼすことも苦悩を吐露することもままならない苦しい時代に生きていくともいえます。

こういう時代状況の中、2019年11月28日の「御遠忌法要」に向け、記念事業の一つとしていよいよ、こ

の2月から毎月一回のペースで聞法会が開催されることになりました。今回の聞法会は、一方的な法話だけでなく、できるだけ門徒さんの思いをくみ取って、より身近な聞法会になるよう実行委員会で工夫していただいたいと考えています。御遠忌テーマにあるように、「親鸞さま、なぜお念仏なの？」という問いをもつて、これから2年間、お同行の皆さんと一緒に、親鸞聖人の教えに聞き、語り合っていけたらいいな、とひそかに期待しています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

南無阿弥陀仏

(御遠忌委員会事務局長)



佐田恵美子さん (行橋市)



秋季彼岸会・永代経法要



九月二十九日(金)

11時 永代経勤行

(物故者追弔会)

門徒感話 (牧本和孝)

ミニ法話 (藤谷 信)

12時 お齋(おにぎり・漬け物)

《チャリテイ・バザー》

13時フルート演奏

中村恵子・安達かずみ

13時半 彼岸会勤行

(同朋奉讃式第一)

法話 (坊守・腹話術法話)

講題「四苦八苦を超えて」

九月三十日(土)

11時 永代経勤行

(物故者追弔会)

門徒感話 (若林範子)

ミニ法話 (村田 風)

12時 お齋(おにぎり・漬け物)

《チャリテイ・バザー》

13時 書道パフォーマンス

向野理恵

13時半 彼岸会勤行

(同朋奉讃式第一)

法話 (住職)

講題「ここが浄土の南

無阿弥陀仏」

感話



初日の感話は、四日市小菊町の牧本和孝さん。奥さんの三回忌を終え、なんとなく「空ろぼになりた」と歩き始めたそう
で、これまでに九州を縦断、四国をお遍路、昨年からは蓮如上人の御影道中に参加。来年はヨーロッパの巡礼もしたいと。淡々とお話しされるお姿は、道を求める行者さんのようでした。

初日は、宇佐市樋田の「樋田郵便局」の中

イベント

村恵子さんが友人の安達かずみさんとデュオで「コンドルは飛んでいく」など親しみ深い曲からクラシックまで演奏して下さいました。ふだん聞くことのないフルートの音色に、お参りしていた皆が、うっとりとして聴き惚れた楽しいひと時でした。



二日目の感話は、柳ヶ浦の若林範子さん。ダンプと正面衝突するような大事な故に会いながらも、医者からの予告をはるかに超えて回復できたのは、

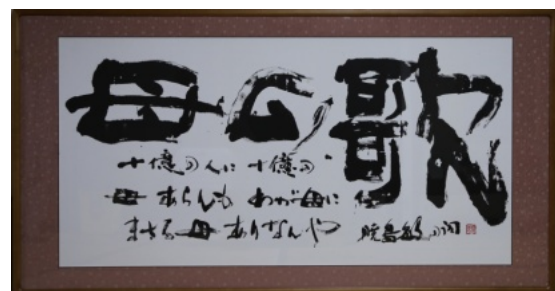
二日目は、院内町の向野理恵さんの書道パフォーマンス。理恵さんは生まれつき心臓が悪く虚弱だったそうです。お母さんはそうした理恵さんを深い愛情をもって見守り続けて下さいました。そのお母さんへの感謝の想いを込めて「命」と



バザー

皆さまのご協力を得て今年もバザーを行うことができました。売上げ金の六九、六

七〇円は、台風18号で市内が水没した津久見市で、炊き出しを続けた蓮照寺さんに届けました。有り難うございました。



「母の歌」の二つを全身全霊で書いて下さいました。
*「母の歌」は額装し、庫裏の玄関に掛けさせていただきます。

平成二十九年年度総代会報告

平成二十九年九月二十一日に総代会が開催され、二十八年度（H28・7・1～H29・6・30）の事業報告と二十九年度（H29・7・1～H30・6・30）の事業計画が承認されました。その概要を報告します。

平成28年度事業報告

毎月28日（親鸞聖人ご命日）午後1時半～

「正信偈」住職
「和讃」坊守

① 秋季彼岸会 並 永代経

【日程】 H28・10・7～8

【法話】 住職、坊守

【参詣者】 延べ百四十二名

② 報恩講

【日程】 H29・1・27～29

【法話】 平野喜之師

【参詣者】 二百七十三名

③ 春季彼岸会 並 花祭り

【日程】 H29・3・24～25

【法話】 酒井浄圓師

村上由香思師

【参詣者】 百六十五名

*ご法話の内容については、「ひびき」85・86号に要旨を載せています。

○ 研修事業について

① 「御名を聞く会」

42名のスタッフが参加

③ 勝福寺研修旅行

（H28・11・3～4）

伊方原発見学と伊予松山散策の旅 25名参加

④ 寺報「ひびき」発行

83・84・85・86号発行

発行部数 三三〇部

⑤ 「忘れなの鐘」3・11

⑥ 「平和の鐘」8・15

⑦ 福島の人々へ大分の農産物を送る会

合計12回 91箱

⑧ 「ミンダナオ子ども図書館」交流会 4・30

50名参加

○ 本山納金について

本山経常費・日豊教区費・宇佐組費・共済掛け金等、合計九九八、二八〇円。おかげさまでお納めすることができました。

② 報恩講

【日程】 H30・1・26～28

【法話】 平野喜之師

③ 春季彼岸会

【日程】 H30・4・16～17

【法話】 川村妙慶師

○ 研修事業について

① 「御名を聞く会」

御遠忌まで休会とし、変わりに「お待ち受け聞法会」を行います。

② 「はじめの一步」

毎月一回 午後2時～

○ 教化活動等について

① 勝福寺仏教婦人会（独自の研修会の外、寺院の清掃、彼岸会の手伝い等を実施）

② たんぽぽ子ども会

（夏・冬・春 開催）

③ 寺報「ひびき」発行

年4回予定

④ 「忘れなの鐘」3・11

⑤ 「平和の鐘」8・15

⑥ 福島の人々へ大分の農産物を送る会

⑦ 「ミンダナオ子ども図書館」交流会（予定）

① 秋季彼岸会 並 永代経

【日程】 H29・9・29～30

【法話】 住職、坊守

【参詣者】 百三十三名

○ 本山納金について

今年度の本山経常費・日豊教区費・宇佐組費・共済掛け金は九九四、〇三〇円です。一戸三千円のご負担をお願いいたします。

○ 総代会役員改選

【新任期】 H29・10・1

～ H32・9・30

会長：向野茂

副会長：渡辺輝幸・香田紀子

事務局長：渡辺和義

会計：松本順・渡辺輝幸

常任委員：丸野寿夫・瀬々和義・渡辺重昭・松尾由美子

牧本和孝

地区総代：麻生民子・池上潔

奥田貞久・奥永義彦・川面美智子・小林聖・権藤孝子・佐々木昌克・外園隆二・後藤啓一郎・長尾正子・幡手伸一・外園晃・本ミチエ・矢次栄子

渡辺ツルヨ・中尾辰子

渡辺ツルヨ

渡辺ツルヨ

渡辺ツルヨ

渡辺一好・渡来止男・山本英利・時高俊二

利・時高俊二

渡辺一好・渡来止男・山本英利・時高俊二

*長い間、お世話いただきました。有り難うございました。

平成29年度事業計画

○ 法要日程

① 秋季彼岸会 並 永代経

【日程】 H29・9・29～30

【法話】 住職、坊守

【参詣者】 百三十三名

○ 教化活動等について

① 勝福寺仏教婦人会（独自の研修会の外、寺院の清掃、彼岸会の手伝い等を実施）

② たんぽぽ子ども会

（夏・冬・春 開催）

延べ68名の子どもと

真宗門徒の豆知識

在家報恩講について

今から29年前、住職を継承した時に、真つ先に提唱したことが「在家報恩講をしよう！」ということでした。11月にご本山、12月には四日市別院、1月には勝福寺の報恩講があつたうえに、2月を、先祖の命日に合わせて参る月忌(がつき)参りではなくて、在家報恩講にと呼びかけたのです。

普段のお参りと報恩講とはお内仏のお莊嚴が違います。内敷(うちしき)をかけて五具足(ごぐそく)にし朱蠟(しゅろう)をともします。お経も正信偈に三(みつ)ゆりと重いお勤めになります。阿弥陀如来の大慈悲のなかに生きるご恩、そのことを教えて下さった釈尊を始め親鸞聖人、諸仏善知識のご恩を喜び謝するお参りなのです。お内仏があることで、私

達のご先祖に護られ支えられて共に生きていきます。また亡き人こそ、私たちをご本尊に手を合わせて、阿弥陀仏のお慈悲をいただくようにと勧めて下さっている仏様です。阿弥陀仏のお浄土がなかったならば、私達はみなしさと孤独感を解決できません。お内仏となつて私達の日々を見守り、この人生に満足を与えようと

して下さる阿弥陀仏の本願の名告(なの)りが南無阿弥陀仏なのです。今年こそ、お内仏の前に家族揃つてお正信偈をあげ、一緒にお齋(とき)をいただきます。我が家でもしたいと願っています。「おお、みんな元気で揃つたか」と、おじいちゃんも喜んでくれると思います。

純子

報告とお願い



この度、藤谷 信・村田 風の結婚式を一月十四日に挙げる事となりました。

二人で勝福寺の手伝いをさせて頂くようになり、二年近くになります。いつも温かく見守って頂き、ありがとうございます。また、勝福寺の後を継ぐかどうか決まってい



難うございます。

子どもの頃から、後を継ぐように言われてきましたが、なかなか思うように行かないもので、申し訳なく思っております。

このような状況ですので、皆さまからのお祝い品のなどはご遠慮させて頂こうと思っております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

本当にいつもありがとうございます。藤谷 信

勝福寺報恩講

一月二十六日(金) 昼席(一時)

御遠忌お待ち受け行事

看板 テーマ垂れ幕披露

御遠忌音頭(婦人会)

法話 住職

夜席(七時半) 末廣法崇師「御伝鈔・絵解き」

一月二十七(土) 昼・夜席 二十八日(日) 昼席

法話 平野喜之師(石川県・浄専寺住職)

講題「どうしたら、仏の国に生まれるか」

お齋 十一時半(どなたも、どうぞ)

*二十七日昼 アース・ハーモニーとコールハイマー トによる「貞子の折り鶴」の朗読と歌があります。



《あとがき》

今回はインタビューをしながら夫婦や家族の「絆」とはどういうものか、改めて考えさせて頂きました。「絆」は東北大地震が起こった二〇一一年を象徴する字でもあります。その字は私達に勇気を与えてくれました。私は、毎回お話しをお聞きしながら、元気をもらっています。どうぞ来年もいろんなお話しをお聞かせください。よろしく申し上げます。(重昭) 今年も年四回、発行できました。これもひとえに、渡辺重昭編集長のおかげです。有り難うございました。(知道)